

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大久保中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の定着について課題がみられる。 <指導上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能について、反復練習や家庭学習する時間等、振り返りをする時間を十分に確保できていない。	⇒ ・「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む【定期テスト前1週間の朝に実施】 ・各教科の勉強会の開催し、基礎的・基本的な定着を図る。 【定期テスト前1週間の放課後・夏季休業中】 ・PCを毎日持ち帰ることで、家庭学習においても「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を取り組めるようにする。 【毎日】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 自分の考えを表現について課題がみられる。 <指導上の課題> 生徒が自ら考え、発表する場面の設定が十分にされていない。	⇒ ・単元構成を見直し、各教科の授業において、生徒が発表する場面や少人数活動を増やし協働的な学びをより多く設定する。また、積極的にICT機器を活用することで、生徒自身が主体的に発表を行えるように環境を整える。 【単元のためめの時間等】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	結果提供(2月)
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、昨年度比で1.5ポイントの改善が見られた。しかし、文脈に沿って漢字を正しく使う力には依然として課題がある。多くの生徒が、文章を読み理解した内容や自分の考えを報告・記述する際に、漢字の使用が不正確である。この背景には、授業において「考えを文章にまとめる活動」や「適切な漢字を用いた記述練習」の不足が考えられる。 数学の知識・技能分野で昨年度比11.5ポイントの大幅な改善が見られた。一方、「データの活用」では「事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する」項目の正答率が低く、課題が残る。特に、文章を読み取り、自らの言葉で回答する記述式問題で正答率が低い傾向が見られる。今後は、授業で記述式問題に重点的に取り組み、「文章で説明する力」を育成する必要がある。	
思考・判断・表現	国語の「書くこと」の領域において、「自分の考えが伝わる文章になるよう、根拠を明確にして書くことができるか」を問う項目で課題が見られた。文章を読み取り、感じたことや想像したことを書く活動が日常的に不足していると考えられる。 数学の思考・判断・表現の分野では、昨年度比で6.0ポイントの改善が見られた。しかし、「図形」に関しては、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明できるか」を問う問題の正答率に課題が残る。今後は、複数の情報を基に総合的・発展的に考える力や、粘り強く思考し、証明の妥当性を評価・改善できる力を育成していく必要がある。	

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	A	1学期末現在、モジュール(朝数学)を全8回実施し、基礎的な計算等に継続して取り組んだ。また、2回の定期テスト期間中には、朝のスタディタイムや勉強タイムを活用し、学習習慣の定着を図った。さらに、夏季休業中には全学年で計35時間の授業や補習、作文指導、実験技能向上、宿題サポート等を実施し、基礎学力の向上に努めた。
思考・判断・表現	A	少人数での話し合いが活動を通して、生徒の考えを深めるとともに、協働的な授業実践を積極的に取り入れている。また、教科等の特質に応じた自己表現の過程を開発することを目的に、ICTサポーターを講師として招き、校内研修を1学期と夏季休業中にそれぞれ1回ずつ実施した。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)